

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 26日

事業所名:ヒューマンサポートセンターcocoro

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○		・作業療法士、言語聴覚等の専門職も配置している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・視覚支援も取り入れながら、子ども達が自発的に考えて活動に取り組んでいけるよう工夫、設定をしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動中の換気、活動終了毎に、清掃、遊具等の消毒の徹底を行っている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		随時レジメに沿って職員全員で参画し、内容の共有を来ない実施している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・アンケート結果等、保護者意見があった際は、職員全員で共有し改善につなげている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・毎年、ホームページに掲載している。また、保護者へも書面にて配布している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・年間計画に沿って、毎月実施している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・全職員で子どもの発達状況を把握し、計画作成に反映させている。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		・ガイドラインの項目より、子どもの実態に沿った支援を選択し、具体的な内容を設定している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画書の共有、発達状況の共有を図りながら実施している。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・クラス担任が中心となり、チームとして立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・季節に沿った伝統行事を味わう工夫をしている。また日々の活動においては、子どもの実態に沿った支援が行えるよう工夫をしている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・子どもの発達状況に合わせて、作業療法士、言語聴覚士による個別訓練も実施し計画書にも盛り込んでいる。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・日々行っている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・日々行っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・日々行っている。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・更新時期に、全職員で情報を共有し見直しの判断をしている。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・原則、児童発達支援管理責任者とクラス担当職員が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・必要に応じて行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—	・対象児がいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—	・対象児がいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・必要に応じて行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・必要に応じて行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・必要に応じて行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	—	—		・コロナウイルス感染症、他の感染症等鑑みながら検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日々行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・親子療育にて行っている。分離の保護者さんへも必要に応じて行っている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・必要に応じて、随時行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	—	—		・コロナウイルス感染症、他の感染症等鑑みながら検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・必要に応じて、随時行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・今年度、更新が滞ったので適宜更新を行う。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・ホームページ等への掲載は、個人が確認できない範囲で対応をしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	—	—		・コロナウイルス感染症、他の感染症等鑑みながら検討していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・消防、避難訓練、感染症については年間計画、研修等に沿って行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・消防、避難訓練、感染症については年間計画、研修等に沿って行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・アセスメント時に聞き取りを実施している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—		・食事提供は行っていないが、アレルギー等Jの情報は利用前に、必ず確認を行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・事例発生時は、全職員にて共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・年間計画に沿って、実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	—	—	・対象児がいない。	・やむを得ず実施する場合は、マニュアルに沿って適宜対応していく。